

## おひさま通信

## 日課づくり

大地

## 新しい日課づくりに向けて

大地が開所してから、10月で13年の月日が経ちました。大地が開所した時からの職員も仲間も13歳年をとったということになります。開所当時は、職員も仲間も20〜30代が多かったそうです。法人で初めての身体障害者の入所施設ということもあり、仲間が豊かに暮らすための日課づくりに、4〜5年かかったと聞きます。これまで、大きく日課を変更することなく仲間たちと過ごしてきました。しかし、近年、仲間の加齢に伴い、受診件数、医療的ケアの必要性の増加、著しく身体機能面が低下している仲間が増えてきました。障害が重くなり、介助度があがっています。パジャマへの更衣も入床する時に行っていたのが、今では16時頃に着替

えなくてはならないほどです。

## 食事場面について

食事の時間は、45分〜60分で組まれています。しかし、最近では、時間内に終わらない仲間が増えてきました。今まで自分で食べることができていた仲間が、腕の可動域の制限で、介助の手が必要になり、厨房職員が介助するようになったり、嚥下面の機能低下が見られ、普通食を食べていた仲間がきざみ食、そしてミキサー食になったり、肺炎で入院を経て、自ら「普通食からきざみ食にしたい」と言うようになった仲間がいます。また、お楽しみ程度の数口の食事で摂食訓練を受けていた仲間が高いつも技術を受けるようになったことなど、年齢を重ねるごとに仲間の障害が重くなってきたのを、日々の実践の中で感じます。



## 仕事面について

仕事は、さわり・書・ウエスの3グループに分かれて行っています。しかし、近年通院する仲間が増え、3グループに分かれて仕事を行うところを、3グループが合同でウエスを裂いたり、軽作業（石けん作り）を行ったりすることが増えてきました。さらに、職員体制が取れない時は、仕事はしないでのんびり日課になることもあります。

## 日課改善チームの立ち上げ

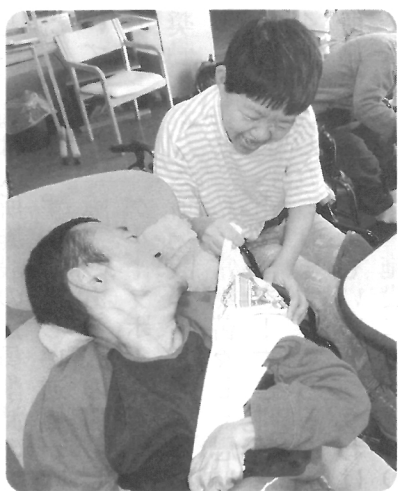
今年度、仲間の障害が重くなってきた状態、このままの日課で生活をしていくのは難しいと意見があがっていることから、日課改善チームを立ち上げました。メンバーは各分野の担当（課業・リハビリ・文化環境）のリーダーが担っています。職員にアンケートをとり、具体的にどの部分の日課を見直すかを仲間と検討してきました。主に課題としてあげられていたことは、①朝食前の移乗や間接訓練が押ししてしまい、8時に開始させることが難しいこと。②食事に配慮が必要な仲間が増え、今までの時間設定では時間内に介助が終わらないこと。③夕方の活動が時間開始から2ヶ月後に、新しい日課を全体会にて発表しました。食事が、仕事の時間、夕方の活動の時間



れて、決められた時間内に間に合わせようとするため、落ち着いた介助ができなくなり、余裕が持てないのが現状です。

日課を改善するにあたって、食事の時間を変更することにより、仕事の時間が短くなったり、入浴時間の変更が必要になってしまふことを、仲間全員が集まる全体会にて何度か話し合いを行いました。仲間から、仕事の時間はあまり減らしてほしくないが現状を考えると仕方がないという意見や、変更するのであれば職員は時間を守るように意識してほしいという意見があがりました。

これら仲間たちの意見をもとに、日課改善チームで再度話し合いをし、検討会発足から2ヶ月後に、新しい日課を全体会にて発表しました。食事、仕事の時間、夕方の活動の時間



と内容が少し変更してしまうが、その分、時間をゆったりとり、活動内

容を充実させていくこと、職員は体制の見直しと時間を守るようにすることを仲間と話して了承されました。確認後、各棟や交流スペース各所に掲示がされました。

新しい日課になってから、食事の時間をゆったり持つことで安全に食事がとれるようになったり、経管栄養の注入をゆったり時間をかけられるようになったりと、職員も焦らずに介助にあたれるようになったのではないかと感じています。

## 小パントリーの活用から

今までC棟、D棟、2Fの3棟で食事をしていたことが、仲間の介助の手が増えたことにより、2Fの仲間も1Fに降りてきて食事をすると2棟体制へと変わりました。2Fの仲間が下に降りてくるということ、

職員間の連携がとれやすくなったこと、職員不在の場所で仲間が食事するリスクはなくなっていました。しかし、現行のスペースでは、仲間が入りきらないため、経管栄養の仲間数名と神永さん、岩瀬さんがパントリーから小パントリーに移動し、小集団でコミュニケーションが行き交う場を想定した空間づくりを進めました。以前から、経管栄養を注入している間、職員・仲間との関わりを深められていないことも課題とされてきました。小パントリーに移ってからは、隣に職員・仲間がいる環境になったことで、以前に増して関わりが増えたのではないかと思います。食事中に居眠りをしてしまう岩瀬さんに職員を介して水野さんが手を伸ばしゆすって「起きてー」と声をかけると目覚める岩瀬さん、女性職員の介助になり、ちよっかいを出すことが増えたり、笑顔が多くなった水野さん。あまり賑やかなところが得意ではない丸山さんや田嶋さんが静かな環境になったことにより、以前に比べて泣いたり不快な表情をしていることが減りました。また、栄養剤を注入している仲間に、手持ち無沙汰にならないように、ペットボトルで作ったマラカスを渡したり、気にかける神永さんの姿がそこにあります。パントリーから少し離れて

## 新日課から半年を経て

いる仲間を気にして、「おーい。岩瀬さん、神永さん。ご飯食べてる？」と気かけ、そばにきてくれる栗原さんやこっそりと顔を出しにきてくれる鈴木さん、黒沢さんの姿もあります。棟を越えた仲間同士の関係性が一層深まったのではないかと感じています。

仲間からは、特に大きな不都合もなく過ごすことができていますが、時間に少しルーズな職員がいるので、時間を守るように意識してほしいという意見があがりました。職員会議では時間を意識しながら介助を進めていくことを再確認しました。

仕事面では、朝食後の介助が落ち着かず、朝の会が始められない状態でしたが、決められた時間に行える様になったことで、見通しを持ちやすくなりました。また、仕事時間は



減ってしまいましたが、仕事内容を充実させるため、事前準備や後片付けを徹底し、すぐに仕事が始めるように職員が努力をしていると仲間から聞きます。

曜日別の夕方の活動においては、水分補給後にパジャマに着替えたりするため、夕方の活動が始まるのが遅くなってしまうことがありました。そのため、活動内容を少し見直しています。健康の取り組みでは、今まで、検温、血圧、\*SPO2、体重測定を職員が行っていましたが、体重測定以外を日中に看護師が行うことになりました。少し看護師の負担が増えています。直接仲間の健康状態を管理することに繋がっています。その分、活動内容を体重測定のために、身だしなみ（耳かき、爪きり）や絵本の読み聞かせも行えるようになりました。

新日課にして感じたことは、仲間の年齢・障害に合った日課をつくることの大切さ、日課についての仲間との話し合いをもつ機会が定期的に必要であることです。仲間が生活に不便さを感じていたのでは、生活の豊かさを築くことが出来ないからです。今後も仲間・職員の意見を聞きながら日課を考えていけたらと思います。

\* (注) 血中酸素飽和度

大地職員 近藤 裕樹